

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

分担研究報告書

肝内結石症に対する外科治療

研究協力者 山上 裕機 和歌山県立医科大学 第2外科 教授

研究要旨：肝内結石症に対する手術術式は、従来は胆管消化管吻合が多く、遺残結石率も60%前後あったが、最近5年では肝切除に加えてPTCSLなどの非観血的治療が増加し、遺残結石率も4%にまで減少した。しかし、肝内結石に対する肝切除は通常の肝癌肝切除術後に比較して創感染や腹腔内感染症の発生頻度が高く、胆汁中細菌検出率が高いことに起因するものと推定された。

A. 研究目的

近年、MDCTやMRIなど画像診断の進歩により肝内結石の存在部位のみならず質的診断も可能となった。医療技術の進歩も著しく、肝切除などの手術療法の成績も向上し、PTCSL、POSなどの非観血的治療も確立した。

しかし、これらの治療後の結石遺残率や再発率が20%前後存在するのも事実で、全国調査でもこの10年間変化がない。これらを改善するには、肝内結石症の複雑な病態を正確に診断し、その個々の病型に最も適した治療法を最初から実行することが肝要である。

B. 研究方法

1971年から2009年の38年間に経験した胆石症は3,345例で、そのうち胆嚢結石症が79.7%を占め、肝内結石症は103例で3.4%であった。平均年齢は総胆管結石症で高齢者が多い傾向にあったが、肝内結石症では平均56.9歳と比較的若く、男女差はなかった。

これらの症例を1985年までを前期、その後を後期とすると、総胆管結石症例と同様に肝内結石症例も減少傾向にあった。しかし、胆嚢摘出に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術が普及したために相対的に減少した可能性もある。以下に当科における肝内結石症103例の治療法の変遷から、外科治療とくに肝切除例の成績を検討した。

C. 研究結果

肝内結石症に対する手術術式の変遷を示す（表1）。従来は術中可及的に碎石し、遺残結石に対しては胆管と空腸吻合を行ってきたが、後期は肝切除術が60%を占め、遺残結石も認めていない。とくに、この5年間はPTCSLなどに代表される非観血的治療が多くなった。PTCSLの碎石法も従来は機械的碎石や電気水压による破砕法を用いていたが、10年前よりDye laserを、5年前よりHolmium YAG laserを用いることによって遺残結石も急激に減少した。

肝内結石に対する病型別治療法として、肝切除術は圧倒的にL型に多く適応され、遺残結石がないと判断できれば、LR型にも積極的に適応している。胆管消化管吻合やPTCSLの適応は難治性のLR型が最も多く、遺残結石も多かった（表2）。

表1. 肝内結石症に対する治療法

| | 治療法 | | | | |
|-----------|--------|-----------|--------|--------|----------|
| | 肝切除 | 胆管消化管吻合 | T-tube | PTCSL | 計 |
| 1971-1985 | 9 (0) | 25 (14)** | 8 (3) | 0 (0) | 42 (17) |
| 1986-2009 | 35 (0) | 12 (4) | 4 (0) | 10 (2) | 61 (6)* |
| | 44 (0) | 37 (18) | 12 (3) | 9 (2) | 103 (22) |

() 遺残結石症例数

* p<0.05 vs 肝切除の遺残結石症例数

** p<0.05 vs 1971-1985の遺残結石症例数

表2. 肝内結石の存在部位別治療法

| 治療法 | 結石の存在部位 | 結石の存在部位 | | |
|------------------------|---------|---------|----|---|
| | | L | LR | R |
| 肝切除 (n=44) | 39 * | 3 | 2 | |
| 胆管消化管吻合 (n=37) | 4 | 25 * | 8 | |
| T-tube drainage (n=12) | 2 | 7 | 3 | |
| PTCSL (n=10) | 0 | 9 * | 1 | |
| | 45 | 44 | 14 | |

* p<0.01 vs LR, L型の結石症例数

肝内結石によって肝切除術を施行した術後合併症の種類と頻度を原発性肝癌や転移性肝癌と比較する（表3）。肝障害、胆汁漏出、などが主なものであり、感染性合併症を除けば、むしろ肝不全や、難治性胸水、腹水などは原発性肝癌に比較して低頻度であった。

表3. 肝切除術後早期の合併症（感染性合併症を除く）

| | 肝内結石症 (n=42) | 原発性肝癌 (n=147) | 転移性肝癌 (n=52) |
|-------|--------------|---------------|--------------|
| 病棟死 | 0 | 4 | 1 |
| 胆汁漏 | 2 | 7 | 1 |
| Ileus | 1 | 5 | 2 |
| 肝機能障害 | 4 | 8 | 4 |
| 肺炎 | 3 | 5 | 2 |
| 消化管出血 | 1 | 7 | 1 |
| 難治性腹水 | 1 | 9 | 0 |
| 難治性胸水 | 1 | 7 | 1 |
| 腹腔内出血 | 1 | 1 | 0 |
| その他 | 2 | 6 | 3 |

しかし、術後創感染や腹腔内感染症の発生頻度は原発性、転移性肝癌と比較すると、ともに有意に高く(表4)、これは胆汁中細菌感染が多いことに起因するものと推測された(表5)。

表4. 肝切除術後の手術部位感染症と遠隔感染症

| | 肝内結石症 ^{a)} | 原発性肝癌 ^{b)} | 転移性肝癌 ^{c)} | P-value |
|---------------|---------------------|---------------------|---------------------|------------------------------|
| | (n=42) | (n=147) | (n=52) | a) vs b), a) vs c), b) vs c) |
| 手術部位感染 (SSIs) | | | | |
| 創感染 | 7 (16.7%) | 8 (5.4%) | 3 (5.8%) | p=0.018, ND, ND |
| 腹腔内感染 | 7 (16.7%) | 12 (8.2%) | 2 (3.8%) | p=0.036, ND, ND |
| 遠隔感染症 | | | | |
| 呼吸器感染症 | 4 (9.5%) | 9 (6.1%) | 2 (3.8%) | ND, ND, ND |
| 尿路感染症 | 1 (2.3%) | 3 (2.0%) | 1 (1.9%) | ND, ND, ND |
| カテーテル感染症 | 2 (4.8%) | 7 (4.7%) | 2 (3.8%) | ND, ND, ND |

表5. 胆管胆汁中の細菌検出率

| | 肝内結石症 | 原発性肝癌 | 転移性肝癌 |
|----------------------|-------------------------|----------|-----------|
| | (n=42) | (n=51) | (n=20) |
| 菌の検出症例数 (%) | 35 (83.3%) [*] | 4 (7.8%) | 2 (10.0%) |
| 複数菌感染率 (mono / poly) | 22 / 13 | 4 / 0 | 2 / 0 |

* p<0.001 vs 肝細胞癌 or 転移性肝癌

D. 考 察

近年肝切除術が安全に施行できるようになり、肝内結石症に対しても積極的に肝切除術が適応されるようになった。肝内結石症に対する肝切除術の最大の利点は切除対象の肝内に充満している結石のすべてとともに、その病変肝の病的胆管(胆管癌を含めて)を一塊として除去できるため、結石の再発の可能性が少ないことにある。特に最も適応され易いL型の肝内結石症は、結石と病的胆管が同時に除去できる肝左葉切除、または外側区域切除のよい適応とされている。とくに日本における近年の肝内結石症にはI型、L型が増加していることもあり、全国調査からみても肝切除術がその治療の過半数を占めるようになった。

しかし、胆石症そのものは良性疾患であるとの立場からはその適応には一定の制約がある。すなわち、①肝内結石が片葉に局限している。②肝内胆管に結石とともに著明な狭窄や拡張が存在する。③肝内胆管癌が併存している。④肝膿瘍や肝萎縮などの肝病変を伴う症例などが適応の原則とされている。

肝内結石症における肝切除術の術後合併症については、原発性肝癌の肝切除後に多い肝不全や難治性胸水・腹水などの頻度は少なく、肝機能が十分に保たれているためと考えられる。しかしながら、創感染や腹腔内感染の頻度は高くこれは胆汁中細菌検出率が高いことに起因しているものと推定される。今後、肝内結

石症に対する肝切除は極力胆汁や結石を腹腔内に漏出することの無いようなグリソン一括処理の手術が望まれる。

E. 結 論

- 肝内結石症に対する手術術式は、従来は胆管消化管吻合が多く、遺残結石率も60%前後あったが、最近5年では肝切除に加えてPTCSLなどの非観血的治療が増加し、遺残結石率も4%にまで減少した。
- 現在の治療方針としては、原則としてL型は肝切除を、R型とLR型にはPTCSLを第一選択とし、PTCSLによる碎石にはホルミウムYAGレーザーを用いて良い成績を上げている。しかし、たとえLR型であっても、完全に切石が可能な症例には積極的に肝切除を施行している。
- 肝内結石に対する肝切除は通常肝癌肝切除術後に比較して創感染や腹腔内感染症の発生頻度が高く、胆汁中細菌検出率が高いことに起因するものと推定された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Uchiyama K, Yamaue H, et al. Assessment of liver function for successful hepatectomy in patients with hepatocellular carcinoma with impaired hepatic function. J Hepatobiliary Pancreat Surg. 15(6) : 596-602. 2008
- 内山和久, 山上裕機: 肝内結石症に対する手術遺残・再発結石予防のための治療法の選択. 外科70(9) : 950-954, 2008. 09
- Uchiyama K, Yamaue H, et al. Half clamping of the infrahepatic inferior vena cava reduces bleeding during a hepatectomy by decreasing the central venous pressure. Langenbecks Arch Surg. 394(2) : 243-247. 2009.
- 内山和久, 山上裕機, 他: 3D CT画像による術前肝切除シミュレーションの有用性 CT volumetry を用いた術前肝機能評価. 胆と膵 29 : 1119-1126, 2008.
- 内山和久, 山上裕機, 他: 肝切除の術前における肝予備能判定式の確立とその評価. 外科治療 102: 85-91, 2010.

2. 学会発表

- 内山和久, 山上裕機, 他: 肝切除術後のSSIの発生頻度について. 第64回日本消化器外科学会総会. 2009. 7, 大阪

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- 特許取得 なし
- 実用新案登録 なし
- その他 なし

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

分担研究報告書

肝内結石症の外科治療

～先天性胆道拡張症術後肝内結石について～

研究協力者 海野 倫明 東北大学大学院医学系研究科 肝胆膵外科 教授

研究要旨：先天性胆道拡張症にて、肝外胆管切除・胆道再建を行なった65例を対象とし、その長期予後、とくに術後肝内結石の発症について検討した。術後肝内結石の発症は10例（15.9%）。戸谷分類ごとの肝内結石の発症は、IV-A型で最も高く38.9%。以下、Ia型で7.1%、Ic型で6.3%であった。術後肝内結石の発症までの平均期間は12.1年（3～28年）。I型に合併した肝内結石は平均16.7年なのに対し、IV-A型では平均10.1年と短期間のうちに発症する傾向が認められた。術後肝内結石の危険因子をodds比から検討すると、「IV-A型」(odds比：10.500)と、「手術時年齢30歳以上」が有意な因子であったが、胆道の再建術式は危険因子とならなかった。

A. 研究目的

近年、原発性肝内結石の発生は著しく減少しているが、先天性胆道拡張症に続発する肝内結石の発生は増加しており注目されている。先天性胆道拡張症は膵・胆管合流異常と胆道の特異な拡張を特徴とする疾患である。その治療として肝外胆管切除・胆道再建（いわゆる分流手術）が標準術式とされる。しかしながら、分流手術が標準術式として定着した今日においても、その術後に、くり返す胆管炎、肝内結石、遺残胆管からの発痛など、本疾患に特異的な合併症をみることは少なくなく、また、その原因、病態生理については不明な点が多い。今回、我々は当科で肝外胆管切除・胆道再建を施行した先天性胆道拡張症65症例を対象として、術後肝内結石の発症について検討した。

B. 研究方法

1979年から2008年までに当科で経験した先天性胆道拡張症手術症例のうち肝外胆管切除・胆道再建術を行ない追跡調査が可能であった65例を対象とし、その長期予後、とくに術後肝内結石の発症について検討した。対象症例の初回手術時の年齢は34.9歳（7～71歳）。先天性胆道拡張症の病型は、戸谷分類Ic：32例（49.2%）、Ia：14例（21.5%）、IV-A：18例（27.7%）。膵・胆道合流異常の合併は60例（92.3%）に認めた。

C. 研究結果

先天性胆道拡張症術後の長期合併症としては、肝内結石：10例（15.4%）、くりかえす胆管炎（肝内結石を伴わない）4例（6.2%）、胆管狭窄2例（3.1%）、遺残胆管癌2例（3.1%）を認めた。遺残胆管癌の発生は、いずれも膵内遺残胆管からの発生であった。肝内結石を発症した10例の内訳は、男性2例、女性8例であり、分流手術時の平均年齢は37.2歳（25～53歳）であった。肝内結石診断時の年齢は49.3歳（32～71歳）であり、術後肝内結石の発症までの平均期間は12.1年（3～28年）であった。先天性胆道拡張症の病型ごとの発生頻度は、戸谷分類Ic：2例（6.3%）、Ia：1例（7.1%）、IV-A：7例（38.9%）であり、IV-Aで高率に発症した。またI型に合併した肝内結石は、分流手

術から発症までの期間が平均16.7年なのに対し、IV-A型では平均10.1年と短期間のうちに発症する傾向が認められた。膵・胆管合流異常の合併は全例に認められた。

10例中、初回手術時に胆石症の合併をみた症例は4例であり、その内訳は、ビリルビンカルシウム石3例、コレステロール系結石1例であった。術後の肝内結石は、全例がビリルビンカルシウム石であった。初回手術時に肝内結石を認めていた症例では、9例中2例（22.2%）に術後肝内結石を発症し、初回手術時に肝内結石を認めなかった症例に比べ、術後肝内結石の発生頻度が高かった。

術後肝内結石発症に関与する因子を検討するため、分流手術時の年齢・性、先天性胆道拡張症の病型、胆石症の合併、胆道系手術既往について、Odds比を算出した。戸谷分類IV-A型では、Odds比10.500（95%信頼区間2.475-55.818）と有意に高く、術後肝内結石発症の危険因子であることが統計学的にも確認された。また、分流手術時年齢30歳以上の症例においても、Odds比4.462（95%信頼区間1.007-31.369）であり、有意な危険因子であった。胆道系手術の既往では、嚢胞空腸吻合術（内瘻化術）の既往でOdds比3.250（95%信頼区間0.722-17.223）と、発生率が高い傾向が認められた。

D. 考 察

先天性胆道拡張症術後の肝内結石の発生率は、15%～12.3%と施設間に差があるが、これらの報告をまとめるとおおむね7%～8%とされる。自験例では、肝外胆管切除・胆道再建（分流手術）をおこなった症例においても、65例中10例（15.4%）に術後肝内結石の発症を認め、発生率が高い傾向であった。術後肝内結石症の成因としては、1）肝内胆管の拡張による胆汁のうっ滞、2）再建術後の吻合部狭窄、3）胆道再建に用いた腸管における胆汁のうっ滞、などが報告されている。術後肝内結石は自験例も含め、ほぼ全例がビリルビンカルシウム石であり、その発生にはうっ滞した肝内胆汁への腸内細菌の逆行性感染が深く関与していると考えられる。肝内胆管の拡張による胆汁の

うっ滞は、戸谷分類Ⅳ-A型において高率に術後肝内結石が生じることから、その成因として重要であることは明らかであるが、肝内胆管に拡張のないⅠa型やⅠc型においても、術後肝内結石を認めることがあるため注意を要する。また、胆道再建に用いた腸管における胆汁のうっ滞も肝内胆管への腸内細菌の逆行性感染、肝内結石の成因に重要である。当科では、現在Roux-en Y法による再建を標準術式としている。

E. 結 論

先天性胆道拡張症に対する肝外胆管切除・胆道再建の長期成績からみた肝内結石について検討を行った。今回の検討により、術後肝内結石の危険因子として「戸谷分類Ⅳ-A型」と「手術時年齢30歳以上」が確認された。これらの症例では、より厳密な術後フォローを行い、肝内結石の早期発見治療を行うことが重要であると考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

| 著者名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|--|---|---|----------------------------|--------------------------------|--------|------|-----------|
| 阿部雅則, 恩地森一 | 自己免疫性肝炎 | 小川 聡 | 内科学書改訂第7版 | 中山書店 | | 2009 | 244-247 |
| 海老沼浩利, 齋藤英胤, 日比紀文 | C型慢性肝疾患患者における制御性T細胞・Th17細胞の動態とその意義. シンポジウム9「ウイルス肝炎・肝癌に対する生体防御」消化器病学の進歩-原点から未来への情報発信- | 飯田三雄 | 第94回日本消化器病学会総会記念誌II. 肝胆膵領域 | 第94回日本消化器病学会総会会長財団法人日本消化器病学会発行 | 東京 | 2009 | 67-71 |
| 鈴木義之 | 自己免疫性肝疾患 Selected Articles | 岡庭豊 荒瀬康司 三角和雄 | Year note 2009-2010 | メディックメディア | 東京 | 2009 | 201-213 |
| 吉澤 要, 一條哲也, 梅村武司, 太田正穂 | 自己免疫性肝炎の発症と重症度の規程因子 遺伝性素因 (HLA, その他)の観点から | 有井滋樹, 市田隆文, 大槻 眞, 岡上 武, 小俣政男, 小泉 勝, 中沼安二, 宮崎 勝, 山田剛太郎 | 自己免疫性肝炎2009 肝胆膵 | アークメディア | 東京 | 2009 | 19-26 |
| 梅村武司, 吉澤 要, 田中榮司, 太田正穂 | IgG4関連自己免疫性肝炎 | 有井滋樹, 市田隆文, 大槻 眞, 岡上 武, 小俣政男, 小泉 勝, 中沼安二, 宮崎 勝, 山田剛太郎 | 自己免疫性肝炎2009 肝胆膵 | アークメディア | 東京 | 2009 | 93-99 |
| 梅村武司, 吉澤 要, 田中榮司, 太田正穂 | CTLA4遺伝子多型と肝疾患 (ウイルス肝炎/PBC/AIH) | 有井滋樹, 市田隆文, 大槻 眞, 岡上 武, 小俣政男, 小泉 勝, 中沼安二, 宮崎 勝, 山田剛太郎 | SNPが変える肝胆膵診療 肝胆膵 | アークメディア | 東京 | 2009 | 1201-1205 |
| Joshita S, Umemura T, Yoshizawa K et al | A2BP1 as a novel susceptible gene for primary biliary cirrhosis in Japanese patients. | | Human Immunology | ELSEVIER | ニューヨーク | 2010 | 520-524 |
| 三宅康広, 高木章乃夫, 山本和秀 | 自己免疫性肝疾患における最近の進歩 | 林 紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹 | Annual Review 2010 消化器 | 中外医学社 | 東京 | 2010 | 136-142 |

| | | | | | | | |
|---|--|--|--|----------------------|-------------|--------------|---------|
| 中沼安二 | 肝臓と胆道系 | 長村義之, 笹野公伸, 澤井高志, 高松哲郎, 内藤 眞, 八十橋操八 | NEW エッセンシャル病 理学 | 医歯薬出版 株式会社 | 東京 | 2009 | 344-357 |
| Nakanuma Y, Zen Y, Sato Y, Ha- rada K, Kasashima S | Inflammatory abdominal aortic aneurysm from a view point of IgG4-relat- ed disease: Proposal of IgG4-related chronic periaortitis | A Laurent, E Morel | Aneurysms: types, risks, formation and treatment | Nova Bio- medical | New York | 2009 | 135-153 |
| 中沼安二 | 肝臓と胆道系 | 長村義之, 笹野公伸, 澤井高志, 高松哲郎, 内藤 眞, 八十橋操八 | NEW エッセンシャル病 理学 | 医歯薬出版 株式会社 | 東京 | 2009 | 344-357 |
| Nakanuma Y, Zen Y, Sato Y, Ha- rada K, Kasashima S | Inflammatory abdominal aortic aneurysm from a view point of IgG4-relat- ed disease: Proposal of IgG4-related chronic periaortitis | A Laurent, E Morel | Aneurysms: types, risks, formation and treatment | Nova Bio- medical | New York | 2009 | 135-153 |
| 石橋大海 | 原発性胆汁性肝硬変患者 への対応 | 日本プライ マリ・ケア 学会 | 熟練医から“日常診療 のさまざまなコツ”を 伝授, 治療91(3)臨時増刊号 | 南山堂 | 東京 | 2009 | 98-99 |
| 本吉康英, 右田清志, 石橋大海 | PBCと自己免疫性肝炎 | 林 紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹 | In Annual Review 消化 器 | 中外医学社 | 東京 | 2009 | 209-214 |
| 石橋大海 | 自己免疫性肝炎(AIH), 原発性胆汁性肝硬変 (PBC), AIHの簡略化 診断基準. | 永井良三総監修, 白鳥敬子, 菅野健太郎, 坪内博仁, 日比紀文 | : 消化器 研修ノート, 初版 | 診断と治療 社 | 東京 | 2009 | 481-483 |
| 石橋大海 | 原発性胆汁性肝硬変 | 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 | 今日の治療指針2010 | 医学書院 | 東京 | 2010 | 447-448 |
| 石橋大海, 上平幸士 | 原発性胆汁性肝硬変 | 北村 聖, 井廻道夫 | 臨床病態学 総論 | ヌーヴェル ヒロカワ | 東京 | 2010 | 120-122 |
| 石橋大海 | 原発性胆汁性肝硬変の診 療ガイド | 厚生労働省 「難治性の肝 疾患に関す る研究」班 | 原発性胆汁性肝硬変 (PBC)の診療ガイド | 文光堂 | 東京 | 2010刊 行予定 | |
| 中村 稔, 塚元和弘, 安波道郎, 近藤久義, 中牟田誠, 小森敦正, 相葉佳洋, 右田清志, 八橋 弘, 石橋大海 | Multidrug resistant pro- tein 3(MDR3) 遺伝子多 型による原発性胆汁性肝 硬変の予後遺伝子診 断. 消化器疾患における エピゲノミクスとゲノミ クス | 小俣政男 | 第16回浜名湖シンポジ ウム論文集 | アークメ ディア | 東京 | 2010 | 81-83, |

| | | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|-----------------------------------|----------|----|------|---------|
| 滝川 一 | 原発性硬化性胆管炎 | 永井良三 | 消化器研修ノート | 診断と治療社 | 東京 | 2009 | 537-540 |
| 田中 篤, 滝川 一 | 原発性胆汁性肝硬変の薬物療法はUDCA だけでよいのか? | 河田純男, 佐々木裕 | 肝臓病診療 Q&A | 中外医学社 | 東京 | 2009 | 239-242 |
| 竹山康章, 向坂彰太郎 | 7. 体質性黄疸 | 永井良三 | 消化器研修ノート | 診断と治療社 | 東京 | 2009 | 464-465 |
| 竹山康章, 向坂彰太郎 | 13. 肝内胆汁うっ滞 | 永井良三 | 消化器研修ノート | 診断と治療社 | 東京 | 2009 | 484-485 |
| 向坂彰太郎, 竹山康章 | 肝移植が難治性原発性胆汁性肝硬変と原発性硬化性胆管炎を救う：問題点とその解決 | 市田隆文 | PBC, PSC と肝移植 第4回伊豆肝臓カンファレンス記録 | アークメディア | 東京 | 2009 | 118-121 |
| 向坂彰太郎 | 8. 肝・胆・膵疾患 薬物性肝障害 drug-induced liver injur | 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 | 今日の治療指針 | 医学書院 | 東京 | 2009 | 403-404 |
| 向坂彰太郎 | 原発性硬化性胆管炎 | 高久史磨, 尾形悦郎, 黒川 清, 矢崎 義雄 | 新臨床内科学 (第9版) | 医学書院 | 東京 | 2009 | 628-630 |
| 西原利治 | 脂肪肝 | 銭谷幹男, 八橋 弘, 柴田 実 | C型肝炎のベスト治療 | 医学書院 | 東京 | 2009 | 110-111 |
| 西原利治 | NAFLD | 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 | 2009 今日の治療指針 | 医学書院 | 東京 | 2009 | 401-402 |
| 西原利治 | 非アルコール性脂肪肝炎の臨床の進展 | 林 紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹 | Annual Review 消化器 2009 | 中外医学社 | 東京 | 2009 | 157-166 |
| 西原利治 | NAFLD | 菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫 | 消化器疾患 最新の治療 | 南江堂 | 東京 | 2009 | 310-312 |
| 西原利治, 小野正文 | NASH (非アルコール性脂肪肝炎) | 横田千津子, 池田宇一, 大越教夫 | 病気と薬パーフェクト BOOK 2009 | 南山堂 | 東京 | 2009 | 384-386 |
| 西原利治 | NAFLD・NASH | 雨森正洋, 大生定義 | 薬の選び方・使い方の エッセンス | 南山堂 | 東京 | 2009 | 977-979 |
| 西原利治, 大西三朗 | 肝臓病診療 Q&A | 河田純男, 佐々木裕 | 自己免疫性肝疾患の実態はどう変化しているか? | 中外医学社 | 東京 | 2009 | 17-18 |
| 西原利治, 小野正文 | NASH の治療はどこまで進歩しているのか? | 河田純男, 佐々木裕 | 肝臓病診療 Q&A | 中外医学社 | 東京 | 2009 | 231-233 |
| 小笠原光成, 小野正文, 廣瀬 享, 野崎靖子, 高橋昌也, 岩崎信二, 西原利治, 大西三朗 | 防風通聖散投与による非アルコール性脂肪性肝障害 (NAFLD) 治療の有用性および作用機序の解明 | 谷川久一 | 酸化ストレスと肝疾患 | アークメディア社 | 東京 | 2009 | 133-137 |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|-----------------|----------|------|---------|
| 廣原淳子, 仲野俊成, 關 壽人, 岡崎和一 | 合併する自己免疫疾患別にみた原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の病態の相違 - PBC 全国調査結果から - | 飯田三雄 | 消化器病学の進歩 - 原点から未来への情報発信 | 日本消化器病学会 | 東京 | 2009 | 251-254 |
| 廣原淳子, 關 壽人, 岡崎和一 | 原発性胆汁性肝硬変 | 杉本恒明, 小俣政男 | 内科症例図説 | 朝倉書店 | 東京 | 2009 | 252-255 |
| 上田佳秀, 江川裕人, 羽賀博典, 上本伸二 | 原発性硬化性胆管炎に対する肝移植 | 市田隆文 | 第4回伊豆肝臓カンファレンス記録 | 株式会社 アークメディア | | 2008 | 93-98 |
| 桶谷 真, 井戸章雄, 坪内博仁 | 劇症肝炎の現況 | 林 紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹 | Annual Review 消化器 2010 | 中外医学社 | 東京 | 2010 | 151-157 |
| Suzuki K, Takikawa Y | Biomarkers of Malnutrition in Liver Cirrhosis. | Preedy, VR, Lakshman, R, Srirajaskanthan, R, Watson, RR | Nutrition, Diet Therapy and the Liver | CRC Press | New York | 2009 | 203-215 |
| 藤澤知雄 | 症例で学 C 型肝炎の IFN 治療 小児に対する IFN 療法 | 銭谷幹男, 八橋 弘, 柴田 実 | C 型肝炎のベスト治療 | 医学書院 | 東京 | 2009 | 86-87 |
| 乾あやの, 藤澤知雄 | 肝炎 | 山城雄一郎 | ナースのための小児の病態生理事典 | ヘルス出版 | 東京 | 2009 | |
| 藤澤知雄 | 肝炎 | 五十嵐隆 | 小児科研修ノート | 診断と治療社 | 東京 | 2009 | |
| 白木 亮, 福島秀樹, 森脇 久隆 | アミノ酸とその分画 | Medical Practice 編集委員会 | 臨床検査ガイド 2009 ~2010 | 文光堂 | 東京 | 2009 | 212-217 |
| 植村正人 藤村吉博 福井 博 | 重症肝・膵疾患における多臓器不全の病態解析 - ADAMTS13 を中心に | 飯田三雄 | 消化器病学の進歩 - 原点から未来への情報発信 - 第94回日本消化器病学会総会記念誌 III. 複合領域 | 医学書院 | 東京 | 2009 | 262-266 |
| 藤原慶一, 横須賀收 | 劇症肝炎 | 幕内雅敏 菅野健太郎 工藤正俊 | 今日の消化器疾患治療指針 第3版 | 医学書院 | 東京 | 2010 | 印刷中 |
| 正田純一 | 胆石症の疫学・病態 | 菅野健太郎 | 胆石症診療ガイドライン | 南江堂 | 東京 | 2009 | |
| 正田純一 | 胆道の炎症 | 小川 聡 | 内科学書第7版 Vol.4 肝・胆道・膵疾患 | 中山書店 | 東京 | 2009 | 320-324 |
| 正田純一 | 原発性硬化性胆管炎 | 小川 聡 | 内科学書第7版 Vol.4 肝・胆道・膵疾患 | 中山書店 | 東京 | 2009 | 324-325 |
| 内山和久, 上野昌樹, 小澤 悟, 桐山茂久, 山上裕機 | 肝切除の術前における肝予備能判定式の確立とその評価. | 内山和久 | 外科治療 | 永井書店 | 大阪 | 2010 | 85-91 |

雑 誌

| 氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|--|---------------------------------|----|----------|------|
| Azemoto Nobuaki, Abe Masanori, Murata Yosuke, et al | Early biochemical response to ursodeoxycholic acid predicts symptom development in patients with asymptomatic primary biliary cirrhosis. | J Gastroenterol | 44 | 624-640 | 2009 |
| Yoshida Osamu, Abe Masanori, Furukawa Shinya, et al | A familial case of autoimmune hepatitis. | Intern Med | 41 | 315-319 | 2009 |
| 阿部雅則, 恩地森一 | 自己免疫性肝炎2009 自己免疫性肝炎の診断 | 肝胆脾 | 59 | 7月12日 | 2009 |
| Doi H, Hiroishi K, Shimazaki T, Eguchi J, Baba T, Ito T, Matsumura T, Nozawa H, Morikawa K, Ishii S, Hiraide A, Sakaki M, Imawari M | Magnitude of CD8+ T-cell responses against hepatitis C virus and severity of hepatitis do not necessarily determine outcomes in acute hepatitis C virus infection. | Hepatol Res | 39 | 256-265 | 2009 |
| Inokuchi M, Ito T, Uchikoshi M, Shimozuma Y, Morikawa K, Nozawa H, Shimazaki T, Hiroishi K, Miyakawa Y, Imawari M | Infection of B cells with hepatitis C virus for the development of lymphoproliferative disorders in patients with chronic hepatitis C. | J Med Virol | 81 | 619-627 | 2009 |
| Hiroishi K, Eguchi J, Baba T, Shimazaki T, Ishii S, Hiraide A, Sakaki M, Doi H, Uozumi S, Omori R, Matsumura T, Yanagawa T, Ito T, Imawari M | Strong CD8+ T-cell responses against tumor-associated antigens prolong the recurrence-free interval after treatment in patients with hepatocellular carcinoma. | J Gastroenterol | | in press | 2010 |
| Horie Y, Kikuchi M, Yamagishi Y, Umeda R, Ebinuma H, Saito H, Kato S, Ishii H, Hibi T, Han JY | Effect of a herbal medicine on fatty liver in rats fed ethanol chronically. | Jpn J Alcohol & Drug Dependence | 44 | 636-648 | 2009 |
| Saito H, Masuda T, Tada S, Ebinuma H, Yamagishi Y, Ojio K, Inoue M, Hibi T | Hepatocellular carcinoma in Keio affiliated hospitals -Diagnosis, treatment, and prognosis of this disease- | Keio J Med | 58 | 161-175 | 2009 |
| Ichikawa H, Ebinuma H, Tada S, Ojio K, Yamagishi Y, Tsukada N, Hongou E, Funae O, Irie R, Saito H, Hibi T | A case of severe cholestatic jaundice with hyperthyroidism successfully treated with methimazole. | Clin J Gastroenterol | 2 | 315-319 | 2009 |
| Yamagishi Y, Saito H, Ebinuma H, Kikuchi M, Ojio K, Kanamori H, Tada S, Horie Y, Kato S, Hibi T | A new prognostic formula for adult acute liver failure using computer tomography-derived hepatic volumetric analysis. | J Gastroenterol | 44 | 615-623 | 2009 |

| | | | | | |
|--|--|----------------------------|-----|-----------|-------|
| Tada S, Saito H, Ebinuma H, Ojiro K, Yamagishi Y, Kumagai N, Inagaki Y, Masuda T, Nishida J, Takahashi M, Nagata H, Hibi T | Treatment of hepatitis C virus with peg-interferon and ribavirin combination therapy significantly affects lipid metabolism. | Hepatol Res | 39 | 195-199 | 2009 |
| Toyoda M, Yokomori H, Kaneko F, Yoshida H, Hoshi K, Takeuchi H, Tahara K, Takahashi A, Kudo T, Motoori T, Ohbu M, Kondo H, Hibi T | Primary biliary cirrhosis-autoimmune hepatitis overlap syndrome concomitant with systemic sclerosis, immune thrombocytopenic purpura. | Intern Med | 48 | 2019-2023 | 2009; |
| Nishimura T, Azuma T, Yokoyama A, Ochiai H, Saito H, Hibi T | New mechanism of transforming growth factor-beta signaling in hepatoma: Dramatic up-regulation of tumor initiating cells and epidermal growth factor receptor expression | Hepatol Res | 39 | 501-509 | 2009 |
| Toda K, Kumagai N, Kaneko F, Tsunematsu S, Tsuchimoto K, Saito H, Hibi T | Pentoxifylline prevents pig serum-induced rat liver fibrosis by inhibiting interleukin-6 production. | J Gastroenterol Hepatol | 24 | 860-865 | 2009 |
| Wakabayashi K, Yoshida K, Leung PS, Moritoki Y, Yang GX, Tsuneyama K, Lian ZX, Hibi T, Ansari AA, Wicker LS, Ridgway WM, Coppel RL, Mackay IR, Gershwin ME | Induction of autoimmune cholangitis in non-obese diabetic (NOD).1101 mice following a chemical xenobiotic immunization. | Clin Exp Immunol | 155 | 577-586 | 2009 |
| Yokomori H, Oda M, Yoshimura K, Nagai T, Fujimaki K, Watanabe S, Hibi T | Caveolin-1 and Rac regulate endothelial capillary-like tubular formation and fenestral contraction in sinusoidal endothelial cells. | Liver Int | 29 | 266-276 | 2009 |
| Kikuchi M, Tomita K, Nakahara T, Kitamura N, Teratani T, Irie R, Yokoyama H, Suzuki T, Yokoyama T, Taguchi T, Tanaka S, Noguchi M, Ohkura T, Hibi T | Utility of quantitative 99mTc-phytate scintigraphy to diagnose early-stage non-alcoholic steatohepatitis. | Scand J Gastroenterol | 44 | 229-236 | 2009 |
| 堀江義則, 石井裕正, 山岸由幸, 海老沼浩利, 菊池真大, 梅田瑠美子, 齋藤英胤, 加藤眞三, 日比紀文 | わが国におけるアルコール性肝硬変の実態とその進展因子に関する検討. | 肝臓 | 50 | 507-513 | 2009 |
| 朴沢重成, 海老沼浩利, 佐伯恵太, 日比紀文 | IBD に合併する肝胆膵病変とその対策. | IBD Research | 3 | 42-50 | 2009 |
| 堀江義則, 山岸由幸, 菊池真大, 齋藤英胤, 加藤眞三, 石井裕正, 日比紀文 | 飲酒の肝硬変進展への影響 —C型肝炎とアルコール性肝硬変の関係について. | 日本アルコール・薬物医学会雑誌 | 44 | 38-42 | 2009 |

| | | | | | | |
|--|--|--|-------------|---------|---------|------|
| 戸田京子, 金子文彦, 熊谷直樹, 杉野陽子, 土本寛二, 日比紀文 | 肝癌細胞株と血管新生についての検討 | 消化器と免疫 | 45 | 176-184 | 2009 | |
| 尾城啓輔, 山岸由幸, 齋藤英胤, 日比紀文 | 海老沼浩利, 多田慎一郎, 日比紀文 | C型慢性肝疾患患者における制御性T細胞・Th17細胞の解析(自己免疫性肝炎患者との比較) | 消化器と免疫 | 45 | 165-167 | 2009 |
| 富田謙吾, 鈴木貴博, 齋藤英胤, 菊池真大, 日比紀文 | 寺谷俊昭, 押川哲也, 横山裕一, 日比紀文 | NASHに対する, TelmisartanとPolyenylphosphatidylcholine併用療法の有効性に関する検討 | アルコールと医学生物学 | 28 | 137-140 | 2009 |
| 富田謙吾, 寺谷俊昭, 押川哲也, 齋藤英胤, 菊池真大, 日比紀文 | 横山裕一, 鈴木貴博, 齋藤英胤, 日比紀文 | NAFLD fibrosis scoreを用いた, 非アルコール性脂肪肝炎患者スクリーニングの試み | アルコールと医学生物学 | 28 | 134-136 | 2009 |
| 山岸由幸, 石井裕正, 菊池真大, 丸山勝也, 日比紀文 | 齋藤英胤, 堀江義則, 横山 顕, 加藤眞三, 日比紀文 | 非B非C大酒家肝細胞癌, 肝硬変におけるALDH2, ADH2遺伝子の検討 | アルコールと医学生物学 | 28 | 111-117 | 2009 |
| 菊池真大, 菊池美穂, 石井裕正, 加藤眞三, 日比紀文 | 山岸由幸, 齋藤英胤, 堀江義則, 加藤眞三, 日比紀文 | 非B非Cアルコール性肝疾患における良性結節と肝細胞癌の鑑別 | アルコールと医学生物学 | 28 | 105-110 | 2009 |
| 堀江義則, 梅田瑠美子, 齋藤英胤, 石井裕正, 日比紀文 | 菊池真大, 加藤眞三, 日比紀文 | アルコール性肝硬変の進展に関与する因子の検討 | アルコールと医学生物学 | 28 | 86-93 | 2009 |
| 寺谷俊昭, 日比紀文 | 富田謙吾, 日比紀文 | 肝疾患領域の臨床と樹状細胞病態を究めるために NASHと免疫 肝樹状細胞との関わり | 肝・胆・膵 | 58 | 241-245 | 2009 |
| 坪内博仁, 清澤研道, 坂井田功, 市田隆文, 鈴木一幸, 森脇久隆, 林 紀夫, 藤澤知雄, 菅原寧彦, 井戸章雄, 井上和明, 宇都浩文, 内木隆文, 木曾真一, 遠藤龍人, 梅村武司 | 熊田博光, 持田 智, 田中榮司, 溝上雅史, 與芝眞彰, 日比紀文, 國土典宏, 石橋大海, 八橋 弘, 滝川康裕, 桶谷 真, 中山伸朗, 多田慎一郎, 矢野公士, 田中靖人, 熊谷公太郎 | 免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策 厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班劇症肝炎分科会および「肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究」班合同報告 | 肝臓 | 50 | 38-42 | 2009 |
| Yokokawa J, Saito H, Kanno Y, et al | Overlap of primary biliary cirrhosis and autoimmune hepatitis: Characteristics, therapy, and long term outcomes. | J Gastroenterol Hepatol | 25(2) | 376-382 | 2010 | |
| 勝嶋史子, 横川順子, 他 | 阿部和道, 他 | 新しい国際診断基準を用いた自己免疫性肝炎の再評価に関する検討 | 肝臓 | 50 (11) | 618-625 | 2009 |

| | | | | | |
|--|--|-----------------------|----------|-----------|------|
| Suzuki Y, Suzuki F, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Hosaka T, Akuta N, Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Kobayashi M, Miyakawa Y, Kumada H | Association of HLA-DR14 with Treatment Response in Japanese Patients with Autoimmune Hepatitis | Dig Dis Sci | In press | In press | 2010 |
| Miyake Y, Iwasaki Y, Kobashi H, et al | Clinical features of type 1 autoimmune hepatitis in adolescence and early adulthood. | Hepatol Res | 39 | 766-71 | 2009 |
| Miyake Y, Iwasaki Y, Kobashi H, et al | Autoimmune hepatitis with acute presentation in Japan. | Dig Liver Dis | 42 | Apr-51 | 2010 |
| Kubota J, Ikeda F, Terada R, et al | Mortality rate of patients with asymptomatic primary biliary cirrhosis diagnosed at age 55 years or older is similar to that of the general population. | J Gastroenterol | 44 | 1000-6 | 2009 |
| Miyake Y, Iwasaki Y, Kobashi H, et al | Clinical features of autoimmune hepatitis diagnosed based on simplified criteria of the International Autoimmune Hepatitis Group. | Dig Liver Dis | 42 | 210-15 | 2010 |
| 三宅康広, 松本和幸, 山本和秀 | 自己免疫性肝炎と原発性硬化性胆管炎の overlap 症候群と考えられた一例 | 臨牀と研究 | 86 | 1537-40 | 2009 |
| 三宅康広, 高木章乃夫, 山本和秀 | 自己免疫性肝炎の薬物治療 | 肝・胆・膵 | 59 | 109-15 | 2009 |
| Watanabe T, Soga K, Hirono H, Hasegawa K, et al | Features of hepatocellular carcinoma in cases with autoimmune hepatitis and primary biliary cirrhosis. | World J Gastroenterol | 15 | 231-239 | 2009 |
| Tamura Y, Yamagiwa S, Aoki Y, Kurita S, et al | Serum alpha-fetoprotein levels during and after interferon therapy and the development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C. | Dig Dis Sci | 54 | 2530-2537 | 2009 |
| Tamura Y, Igarashi M, Suda T, Wakai T, et al | Fucosylated fraction of alpha-fetoprotein as a predictor of prognosis in patients with hepatocellular carcinoma after curative treatment. | Dig Dis Sci | | in press | 2010 |
| Itatsu K, Sasaki M, Harada K, Yamaguchi J, Ikeda H, Sato Y, Ohta T, Sato H, Nagino M, Nimura Y, Nakanuma Y | Phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase 1/2, p38 mitogen-activated protein kinase and nuclear translocation of nuclear factor-kB are involved in upregulation of matrix metalloproteinase-9 by tumour necrosis factor- α . | Liver Int | 29(2) | 291-8 | 2009 |
| Sato Y, Harada K, Ikeda H, Fujii T, Sasaki M, Zen Y, Nakanuma Y | Hepatic stellate cells are activated around central scars of focal nodular hyperplasia of the liver-a potential mechanism of central scar formation. | Hum Pathol | 40(2) | 181-8 | 2009 |
| Yasoshima M, Sato Y, Furubo S, Kizawa K T, Sanzen T, Ozaki S, Harada K, Nakanuma Y | Matrix proteins of basement membrane of intrahepatic bile ducts are degraded in congenital hepatic fibrosis and Caroli's disease. | J Pathol | 217(3) | 442-51 | 2009 |

| | | | | | |
|--|---|-------------------------------|--------|------------------------|------|
| Itatsu K, Sasaki M, Yamaguchi J, Ohira S, Ishikawa A, Ikeda H, Sato Y, Harada K, Zen Y, Sato H, Ohta T, Nagino M, Nimura Y, Nakanuma Y | Cyclooxygenase-2 is involved in the up-regulation of matrix metalloproteinase-9 in cholangiocarcinoma induced by tumor necrosis factor-alpha | Am J Pathol | 174(3) | 829-41 | 2009 |
| Harada K, Sato Y, Ikeda H, Isse K, Ozaki S, Enomae M, Ohama, Katayanagi K, Kurumaya H, Matsui A, Nakanuma Y | Epithelial-mesenchymal transition induced by biliary innate immunity contributes to the sclerosing cholangiopathy of biliary atresia. | J Pathol | 217(5) | 654-64 | 2009 |
| Ikeda H, Sasaki M, Sato Y, Harada K, Zen Y, Mitsui T, Nakanuma Y | Bile ductular cell reaction with senescent hepatocytes in chronic viral hepatitis is lost during hepatocarcinogenesis. | Pathol Int | 59(7) | 471-8 | 2009 |
| Harada K, Shimoda S, Sato Y, Isse K, Ikeda H, Nakanuma Y | Periductal interleukin-17 production in association with biliary innate immunity contributes to the pathogenesis of cholangiopathy in primary biliary cirrhosis. | Clin Exp Immunol | 157(2) | 261-270 | 2009 |
| Kitao A, Sato Y, Kitamura S, Harada K, Sasaki M, Morikawa H, Shiomi S, Honda M, Matsui O, Nakanuma Y | Endothelial to mesenchymal transition via transforming growth factor-beta1/Smad activation is associated with portal venous stenosis in idiopathic portal hypertension. | Am J Pathol | 175(2) | 616-26 | 2009 |
| Harada K, Nakanuma Y | Mechanisms of the sclerosing cholangiopathy in biliary atresia: Association with biliary innate immunity and epithelial-mesenchymal transition. | Biliary Atresia | Dec | 9月26日 | 2009 |
| 中沼安二, 全陽 | IgG4関連硬化性疾患の病因・病態 | 病理と臨床 | 27(1) | 17-24 | 2009 |
| 中沼安二, 原田憲一, 任香善, 鹿毛政義, 久持顕子 | 薬剤性障害の病理: 薬物性肝障害 b) 病理 | 病理と臨床 | 27(8) | 764-69 | 2009 |
| Itatsu K, Sasaki M, Nakanuma Y et al | Phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase 1/2, p38 mitogen-activated protein kinase and nuclear translocation of nuclear factor-kB are involved in upregulation of matrix metalloproteinase-9 by tumor necrosis factor- α . | Liver Int | 29 | 291-8 | 2009 |
| Itatsu K, Sasaki M, Nakanuma Y et al | Cyclooxygenase-2 is involved in the up-regulation of matrix metalloproteinase-9 in cholangiocarcinoma induced by tumor necrosis factor-alpha. | Am J Pathol | 174 | 829-41 | 2009 |
| Nakanishi Y, Zen Y, Nakanuma Y et al | Intraductal oncocytic papillary neoplasm of the bile duct: the first case of peribiliary gland origin. | J Hepatobiliary Pancreat Surg | 16 | 869-73 | 2009 |
| Nakanishi Y, Kondo S, Nakanuma Y et al | Impact of residual in situ carcinoma on postoperative survival in 125 patients with extrahepatic bile duct carcinoma. | J Hepatobiliary Pancreat Surg | | E p u b ahead of print | 2009 |
| Nakanuma Y, Zen Y, Harada K et al | Tumorigenesis and phenotypic characteristics of mucin-producing bile duct tumors: an immunohistochemical approach. | J Hepatobiliary Pancreat Surg | | E p u b ahead of print | 2009 |

| | | | | | |
|--|--|---------------------|---------------|---------------|------|
| Sasaki M, Yamaguchi J, Nakanuma Y et al | Polycomb group protein Bmi1 is overexpressed and essential in anchorage-independent colony formation, cell proliferation and repression of cellular senescence in cholangiocarcinoma Tissue and culture studies. | Hum Pathol | 40 | 1723-30 | 2009 |
| Onodera M, Zen Y, Nakanuma Y et al | Fascin is involved in tumor necrosis factor-alpha-dependent production of MMP9 in cholangiocarcinoma. | Lab Invest | 89 | 1261-74 | 2009 |
| Nakanuma Y, Sasaki M, Sato Y et al | Multistep carcinogenesis of perihilar cholangiocarcinoma arising in the intrahepatic large bile ducts. | World J Hepatol | 15 | 35-42 | 2009 |
| 中沼安二 | 胆道癌病態解明への新たな一歩. | 肝胆膵 | 58 | 705-7 | 2009 |
| 全 陽, 中沼安二 | 胆管上皮内腫瘍に関する話題: 胆管上皮腫瘍 / 前がん病変の分類. | 肝胆膵 | 58 | 709-14 | 2009 |
| 上田和彦, 角谷眞澄, 中沼安二他 | 胆管上皮内腫瘍に関する話題: 粘液産生性胆管腫瘍の画像所見. | 肝胆膵 | 58 | 809-15 | 2009 |
| 全陽, 中沼安二 | 膵・胆道系腫瘍のトピックス - 粘液産生性腫瘍を中心に - 胆道粘液産生性腫瘍の病理診断. | 病理と臨床 | 27 | 546-53 | 2009 |
| 中沼安二, 原田憲一, 木村 康 他 | 胆道癌の病理診断. | 消化器外科 | 32 | 1715-25 | 2009 |
| 中沼安二, 佐々木素子, 佐藤保則 他 | 肝, 胆管発癌における cancer stem cell の役割. | 肝胆膵 | 59 | 639-47 | 2009 |
| Nakamura M, Yasunami M, Kondo H, Horie H, Aiba Y, Komori A, Migita K, Yatsuhashi H, Ito M, Shimoda S, Ishibashi H and PBC Study Group in NHOSLJ | Analysis of HLA-DRB1 polymorphisms in Japanese patients with primary biliary cirrhosis (PBC): the HLA-DRB1 polymorphism determines the relative risk of antinuclear antibodies for disease progression in PBC. | Hepatology Research | | in press | 2010 |
| Haruta I, Kikuchi K, Hashimoto E, Nakamura M, Miyakawa H, Hirota K, Shibata N, Kato H, et al | Long-term bacterial exposure can trigger nonsuppurative destructive cholangitis associated with multifocal epithelial inflammation. | Lab Invest | | in press | 2010 |
| Migita K, Ilyassova B, Kovzel EF, Nersesov A, Abiru S, Maeda Y, Komori A, Ito M, Yano K, Yatsuhashi H, Shimoda S, Ishibashi H and Nakamura M | Serum Baff and APRIL levels in patients with PBC. | Clin Immunol | 134 | 217-225 | 2010 |
| Nakamura M, Yasunami M, Kondo H, Aiba Y, Komori A, Migita K, Yatsuhashi H, Nakamura M, Hayashi S, Saito A, Honda K, Shimada M, Watanabe Y, Yagura M, Kohno H, Sugi K, Ota H, Komatsu T, Mannami T, Koga M, Satoha T, Takesaki E, Yamamoto T, Oohara Y, Masaki N, Ishibashi H | Analysis of HLA-DRB1 polymorphism in Japanese patients with primary biliary cirrhosis- HLA-DRB1 polymorphism determines the relative risk of anti-nuclear antibodies for the disease-progression in PBC. | Hepatology | 50 (4, Suppl) | 1004 A, 1521. | 2009 |

| | | | | | |
|--|---|------------------------------|------------|-----------|------|
| Ishibashi H, Nakamura M, Komori A, Migita K, Shimoda S | Liver architecture, cell function, and disease. | Semin Immunopathol | 31(3) | 399-409 | 2009 |
| 中村 稔, 相葉佳洋, 小森敦正, 石橋大海 | 肝疾患難病“原発性胆汁性肝硬変”の新規マーカーによる予後予測. | 医療 | 63(6) | 357-362 | 2009 |
| 中村 稔, 石橋大海 | <特集>自己免疫性肝胆膵疾患-最新知見. 原発性胆汁性肝硬変の長期予後診断と治療 | 医学のあゆみ | 228(9) | 889-894 | 2009 |
| 本吉康英, 石橋大海, 下田慎治 | 自己免疫性肝疾患. <特集>患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス | 治療 | 91(4), 増刊号 | 972-976 | 2009 |
| 右田清志, 小森敦正, 石橋大海 | 治療抵抗性自己免疫性肝炎. <特集>自己免疫性肝炎2009 | 肝胆膵 | 59(1) | 125-129 | 2009 |
| 石橋大海, 中村 稔, 小森敦正 | 肝疾患診療における彼我の違い: 黒船は来るのか? 「10. 原発性胆汁性肝硬変ガイドラインの作成」 | 肝胆膵 | 60(2) | 257-264 | 2010 |
| 滝川 一 | 原発性硬化性胆管炎の診断・治療 | 医学のあゆみ | 228 | 895-899 | 2009 |
| 滝川 一 | 特集: 胆膵診療における薬物療法のすべて. 原発性硬化性胆管炎 | 胆と膵 | 30 | 649-651 | 2009 |
| Tanaka A, Nezu S, Uegaki S, Kikuchi K, Shibuya A, Miyakawa H, Takahashi S, Bianchi I, Zermiani P, Podda M, Ohira H, Invernizzi P, Takikawa H | Vitamin D receptor polymorphisms are associated with increased susceptibility to primary biliary cirrhosis in both Japanese and Italian populations. | J Hepatol | 50 | 1202-1209 | 2009 |
| 田中篤, 高橋宏樹, 根津佐江子, 上野義之, 菊池健太郎, 渋谷明隆, 大平弘正, 銭谷幹男, Lorenzo Montali, Pietro Invernizzi, 滝川一 | 日本人PBC患者における Fisk Fatigue Severity Score (FFSS) 日本語版の妥当性の検証 | 肝臓 | 50 | 51-59 | 2009 |
| Takeyama Y, Uehara Y, Inomata S, et al | Alternative transporter pathways in patients with untreated early-stage and late-stage primary biliary cirrhosis. | Liver International | 29 | 406-414 | 2009 |
| Takeyama Y, Kanegae K, Inomata S, et al | Sustained upregulation of sodium taurocholate cotransporting polypeptide and bile salt export pump and downregulation of cholesterol 7 α -hydroxylase in the liver of patients with end-stage primary biliary cirrhosis. | Medical Molecular Morphology | | in Press | |
| Harada N, Soejima Y, Taketomi A, Yoshizumi T, Uchiyama H, Ikegami T, Saibara T, Nishizaki T, Maehara Y | Recurrent familial hypobetalipoproteinemia-induced nonalcoholic fatty liver disease after living donor liver transplantation. | Liver Transpl | 15 | 806-809 | 2009 |
| Asanuma T, Ono M, Kubota K, Hirose A, Hayashi Y, Saibara T, Inanami O, Ogawa y, Enzan H, Onishi S, Kuwabara M, Oben JA | Super paramagnetic iron oxide MRI shows defective Kupffer cell uptake function in non-alcoholic fatty liver disease., | Gut | 59 | 258-266. | 2010 |

| | | | | | |
|--|---|-----------------------------|------|-----------|------|
| Hidaka M, Iwasaki S, Matsui T, Kawakita T, Inoue Y, Sakai T, Harada N, Takemoto S, Nagakura S, Kiyokawa T, Takahashi M, Saibara T, Onishi S Kawano F | Efficacy of bezafibrate for chronic GVHD of the liver after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. | Bone Marrow Transplantation | | In press | |
| Yoshioka S, Hamada A, Jobu K, Yokota J, Onogawa M, Kyotani S, Miyamura M, Saibara T, Onishi S, Nishioka Y | Effects of Eriobotrya Japonica seed extract on oxidative stress in rats with non-alcoholic steatohepatitis. | J Pharmacy and Pharmacology | | In press | |
| 大西三朗, 西原利治 | NAFLD, NASH の病態と臨床 | 日本内科学会誌 | 98 | 48-53 | 2009 |
| 河田純男, 泉並木, 池田健次, 西原利治 | 肝疾患診療の新しい展開 | 日本医師会雑誌 | 138 | 1061-1073 | 2009 |
| 大西三朗, 西原利治 | NAFLD, NASH の病態と臨床 | 日本内科学会雑誌 | 98 | 2101-2111 | 2009 |
| 岡上武, 西原利治, 小野正文, 角田圭雄, 橋本悦子, 田村信司, 山田剛太郎, 河田純男, 工藤正俊 | 日本肝臓学会コンセンサス神戸2009 NASH の診断と治療 | 肝臓 | 50 | 741-747 | 2009 |
| 岩崎信二, 高橋昌也, 西原利治 | 原発性胆汁性肝硬変に対する bezafibrate の効果 | Bio Clinica | 24 | 83-87 | 2009 |
| 小野正文, 小笠原光成, 西原利治, 大西三朗 | NASH モデル動物における発癌リスク | 消化器内科 | 48 | 97-104 | 2009 |
| 廣瀬享, 宮本敬子, 西原利治 | 肥満と NASH | 治療学 | 43 | 1048-1050 | 2009 |
| 西原利治 | NASH の早期診断およびマジンドールの適応と使用上の注意 | 日本医事新報 | 4470 | 76-77 | 2009 |
| 宮本敬子, 岡本宣人, 西原利治 | NASH 発症に関連する遺伝子多型 | 肝胆膵 | 59 | 1195-1199 | 2009 |
| Miyazaki T, Bouscarel B, Ikegami T, Honda A, Matsuzaki Y | The protective effect of taurine against hepatic damage in a model of liver disease and hepatic stellate cells. | Adv. Exp. Med. Biol. | 643 | 293-303 | 2009 |
| Hirayama T, Mizokami Y, Honda A, Homma Y, Ikegami T, Saito Y, Miyazaki T, Matsuzaki Y | Serum concentration of 27-hydroxycholesterol predicts the effects of high-cholesterol diet on plasma LDL cholesterol level. | Hepatol. Res. | 39 | 149-156 | 2009 |
| Honda A, Yamashita K, Hara T, Ikegami T, Miyazaki T, Shirai M, Xu G, Numazawa M, Matsuzaki Y | Highly sensitive quantification of key regulatory oxysterols in biological samples by LC-ESI-MS/MS. | J. Lipid Res. | 50 | 350-357 | 2009 |
| Miyazaki T, Doy M, Unno R, Honda A, Ikegami T, Itoh S, Bouscarel B, Matsuzaki Y | Regulatory T cells and liver pathology in a murine graft versus host response model. | Hepatol. Res. | 39 | 585-594 | 2009 |

| | | | | | |
|---|--|--------------------|--------|-----------|------|
| Honda A, Yamashita K, Ikegami T, Hara T, Miyazaki T, Hirayama T, Numazawa M, Matsuzaki Y | Highly-sensitive quantification of serum malonate, a possible marker for de novo lipogenesis, by LC-ESI-MS/MS. | J. Lipid Res. | 50 | 2124-2130 | 2009 |
| Onori P, DeMorrow S, Gaudio E, Franchitto A, Mancinelli R, Venter J, Kopriva S, Ueno Y, Alvaro D, Savage J, Alpini G, Francis H | Caffeic acid phenethyl ester decreases cholangiocarcinoma growth by inhibition of NF-kappaB and induction of apoptosis. | Int J Cancer | 125 | 565-576 | 2009 |
| Mancinelli R, Onori P, Gaudio E, Franchitto A, Carpino G, Ueno Y, Alvaro D, Annarale LP, Demorrow S, Francis H | Taurocholate feeding to bile duct ligated rats prevents caffeic Acid-induced bile duct damage by changes in cholangiocyte VEGF expression. | Exp Biol Med | 234 | 462-474 | 2009 |
| Kido O, Fukushima K, Ueno Y, Inoue J, Jefferson DM, Shimosegawa T | Compensatory role of inducible annexin A2 for impaired biliary epithelial anion-exchange activity of inflammatory cholangiopathy. | Lab Invest | 89 | 1374-1386 | 2009 |
| Kakazu E, Ueno Y, Kondo Y, Fukushima K, Shiina M, Inoue J, Tamai K, Ninomiya M, Shimosegawa T | Branched chain amino acids enhance the maturation and function of myeloid dendritic cells ex vivo in patients with advanced cirrhosis. | Hepatology | 50 | 1936-1945 | 2009 |
| Fukushima K, Ueno Y and Shimosegawa T | Treatment of Primary Biliary Cirrhosis: A new challenge? | Hepatol Res | 40 | 61-68 | 2010 |
| Shimoda S, Harada K, Niuro H, Taketomi A, Maehara Y, Tsuneyama K, Kikuchi K, Nakanuma Y, Mackay IR, Gershwin ME, Akashi K | CX3CL1 (fractalkine): a signpost for biliary inflammation in primary biliary cirrhosis. | Hepatology | 51(2) | 567-75 | 2010 |
| Migita K, Ilyassova B, Kovzel EF, Nersesov A, Abiru S, Maeda Y, Komori A, Ito M, Yano K, Yatsuhashi H, Shimoda S, Ishibashi H, Nakamura M | Serum BAFF and APRIL levels in patients with PBC. | Clin Immunol | 134(2) | 217-25 | 2010 |
| Harada K, Shimoda S, Sato Y, Isse K, Ikeda H, Nakanuma Y | Periductal interleukin-17 production in association with biliary innate immunity contributes to the pathogenesis of cholangiopathy in primary biliary cirrhosis. | Clin Exp Immunol | 157(2) | 261-70. | 2009 |
| Borchers AT, Shimoda S, Bowlus C, Keen CL, Gershwin ME | Lymphocyte recruitment and homing to the liver in primary biliary cirrhosis and primary sclerosing cholangitis. | Semin Immunopathol | 31(3) | 309-22. | 2009 |
| Ishibashi H, Nakamura M, Komori A, Migita K, Shimoda S | Liver architecture, cell function, and disease. | Semin Immunopathol | 31(3) | 399-409. | 2009 |

| | | | | | |
|---|--|----------------------------|------------------|-----------|------|
| Tabrizi SJ, Niiro H, Masui M, Yoshimoto G, Iino T, Kikushige Y, Wakasaki T, Baba E, Shimoda S, Miyamoto T, Hara T, Akashi K | T cell leukemia/lymphoma 1 and galectin-1 regulate survival/cell death pathways in human naive and IgM+ memory B cells through altering balances in Bcl-2 family proteins. | J Immunol | 182(3) | :1490-9. | 2009 |
| 菊池健太郎, 河井敏宏, 梶山祐介, 高井敦子, 速水絵里子, 細谷直美, 宮川 浩 | 原発性胆汁性肝硬変と BAFF : Toll-like receptor 9発現への関与について (基礎的検討)。 | 第45回日本肝臓学会総会講演要旨 | 50 sup- pl(1) | A161 | 2009 |
| Enjoji M, Yada R, Fujino T, Yoshimoto T, Yada M, Harada N, Higuchi N, Kato M, Kohjima M, Taketomi A, Maehara Y, Nakashima M, Kotoh K, Nakamuta M | The state of cholesterol metabolism in the liver of patients with primary biliary cirrhosis: the role of MDR3 expression. | Hepatol Int | 3(3) | 490-496 | 2009 |
| Nakamuta M, Fujino T, Yada R, Yasutake K, Yoshimoto T, Harada N, Yada M, Higuchi N, Kato M, Kohjima M, Taketomi A, Maehara Y, Nishinakagawa T, Machida K, Matsunaga K, Nakashima M, Kotoh K, Enjoji M | Therapeutic effect of bezafibrate against biliary damage: a study of phospholipid secretion via the PPARalpha-MDR3 pathway. | Int J Clin Pharmacol Ther. | 48 | 22-28 | 2010 |
| 上田佳秀, 江川裕人 | 原発性硬化性胆管炎の移植成績は不良なのか? | 肝胆膵 | 56 | 573-580 | 2008 |
| Egawa H, Taira K, Teramukai S, Haga H, Ueda Y, Yonezawa A, Masuda S, Tsuji H, Ashihara E, Takada Y, Uemoto S. | Risk factors for recurrence of primary sclerosing cholangitis after living donor liver transplantation: a single center experience. | Dig Dis Sci | 51 | 1347-1354 | 2009 |
| 上村 章, 桶谷 真, 坪内博仁 | 自己免疫性肝炎2009 重症型自己免疫性肝炎 (治療を含めて) | 肝胆膵 | 59 | 83-91 | 2009 |
| 桶谷 真, 宇都浩文, 井戸章雄, 坪内博仁 | ここが知りたいウイルス性肝炎への抗ウイルス療法の問題点と将来展望 HBV キャリアに対する化学療法、免疫抑制療法時の対応基準は | 肝胆膵 | 58 | 591-599 | 2009 |
| 桶谷 真, 宇都浩文, 井戸章雄, 坪内博仁 | 急性肝不全における内科的治療と肝移植の進歩 わが国の劇症肝炎の現況と問題点 | 日本腹部救急医学会雑誌 | 29 | 577-582 | 2009 |
| 桶谷 真, 宇都浩文, 井戸章雄, 坪内博仁 | B型肝炎の病態解明最前線 化学療法によるB型肝炎活性化とその対策 | 臨床消化器科 | 24 | 677-683 | 2009 |
| 桶谷 真, 井戸章雄, 坪内博仁 | わが国における劇症肝炎の現状 | 肝胆膵 | 59 | 361-369 | 2009 |
| 桶谷 真, 坪内博仁 | 免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策 | Medical Technology | 38 | 412-417 | 2010 |
| Ido A, Tsubouchi H | Translational research to identify clinical applications of hepatocyte growth factor. | Hepatol Res | 39 | 739-747 | 2009 |